

車破砕物 再資源化へ

リサイクル業の平林金属（岡山市北区下中野）は自動車スクラップの破砕工程で、鉄や非鉄金属を取り除いた後に残る混合物の中から、純度の高い合成樹脂のポリプロピレン（PP）を選別する事業に乗り出す。樹脂部品の再資源化を促す動きが国内外で広がる中、倉敷市玉島乙島にあるグループの工場に新たなプラントを設置。混合物の年間処理能力は約4千トで、抽出したPPはバンパーやダッシュボードの原料としての供給を目指す。（橋本直樹）

平林金属

混合物はASRと呼ばれる、樹脂やガラス、繊維、ゴムなどがばらばらに含まれる。ASRの中から割れにくい硬質のPPを取り出し、磁石を使って金属とそすため、新プラントは風を当てたり、水に浮かべたりと、重さの違いによってふるいにかけていく仕組み。同社の家電リサイクルの知見を盛り込んでいる。乾燥工程では汚れを取り除き、15ミリのPPだけを集める。物置場だった約800平方メートルに3億3千万円をかけて新設した。10月から試運転を始め、年内にも本格稼働する。

工場は「リサイクルステージ玉島」（RS玉島）で、



ASRから取り出したポリプロピレン

合成樹脂選別 倉敷にプラント新設

製錬に回せる銅やアルミ、樹脂をより分ける2次ラインを持つ。2024年には5300トのASRが生じ、そのうち720ト程度も集める。



リサイクルステージ玉島に新設されたポリプロピレンの選別プラント

ASRは自動車リサイクル法で認められているボイラーやセメント製造での熱源になるケースが多いという。一方で再利用を促す狙いから、国内では26年度にも「自動車リサイクル資源回収インセンティブ制度」が始まる。さらに欧州では新車に最低20%の再生プラスチック（うち15%は廃車由来）の使用を義務付ける規制が29年以降に導入される計画があり、自動車メーカーとサプライヤーからの需要増が予想されている。平林金属は「プラントを設けている破砕事業者はまだ少ない。先行して事業化し、純度の高いPPの供給で取引先を広げたい」としている。

同社は1956年創業、60年設立、資本金9980万円、グループの売上高は259億4000万円（2024年12月期）、従業員は525人。

スーム 自動車リサイクル資源回収インセンティブ制度 使用済み自動車の解体、破砕の過程でバンパーやガラスなどの部品を回収し、再生市場に回すことを促す国の制度。2026年4月に導入予定で、解体業者、破砕業者、事業者を組むことが求められる。